

**発達障がいの理解と支援についての研修を開催**

6月20日(水)、美唄市総合福祉センターぽぷらにて平成30年度空知知的しょうがい福祉協会職員研修会が行われました。33事業所、65名の参加を頂きました。日頃支援を行うにあたり、発達障がいを正しく理解する事で、職員のスキルアップ並びに支援力の向上を目的として講義頂きました。



**講義『発達障がいの理解と支援について』**

自閉症支援を行うにあたり、自閉症の基礎知識、特性を正しく理解するところから始まりました。なぜ自閉症の方が不適切な行動を行うかを、冰山モデルを例に分かりやすくお話頂きました。構造化では、物質的構造化、様々なスケジュール、アクティビティシステム(ワークシステム)、マテリアルの構造化(視覚的構造化)、構造化を実践するにあたっての注意点についてを、実際の現場で使用している写真を見ながら一つ一つ丁寧に説明して頂きました。



北海道発達障害支援センター あおいそら  
チーフコーディネーター 片山 智博 氏

**グループワーク**

**『特性を踏まえた仮説を立て支援方略を考える』**

午後からは、ある人の問題となっている行動について「特性を踏まえた仮説を立てる」「仮説に対する支援方略を考える」という2つのテーマで各グループに別れ意見を出し合いました。『隣の方の食事を食べてしまう』という問題行動について、冰山モデルを用いて利用者さんの隠れた部分を考え発表しました。経験年数や考え方、捉え方の違う参加者が、それぞれ意見を出し合い様々な仮説が出ていました。



**☆職員研修会 参加者アンケートより☆**

- 自閉症に対しての特性や傾向を学び、実際の利用者さんの姿と比べる事が出来た。
- 自閉症の方、それぞれの学習スタイルがあるという事を学べた。
- 自閉症に対する支援の組み立て方、伝え方についての知識を深める事が出来た。
- 不適切行動を減らすのではなく、適切な行動を増やす事が大切とお話してから、今度の支援に役立つ事だと思った。
- 色々な方の自閉症の人のイメージや姿を知る事が出来た。
- 仮説と学習スタイルをリンクして考える事で、仮説を立てるだけでは無く理由について考える事で理解を深める事が出来た。
- 他施設の方の意見や体験談を聞けて勉強になった。
- 実際の仕事をやる上で、どのように応用すれば良いか具体的に考える事が出来た。